

統一教会問題について

笹岡優光 (茨田)

1. 安倍元総理の死について

安倍氏がまさかこのように形を遂げようとは、日本中の誰が(安倍氏本人も含めて)想像できたであろうか。まさに驚天動地の出来事であった。

そして統一教会は、山上容疑者の行為により、いま最大の危機に面している。

歴史に「もし」はないと言われているが、もし当日の警備体制が十分なものであったなら、もし安倍氏が当日、長野県に行っていたら、もしUPFの総会にビデオメッセージを送っていたら、もし統一教会の名称変更が許可されていなかったら、もし安倍氏の祖父岸信介氏が統一教会と関係を持たなかったなら、安倍氏は死なずにすんだかも知れない。

安倍氏が山上容疑者に撃たれて死ぬまで、その死を阻止する条件は無数にあった。しかし安倍氏はその無数にあった条件を一つも採用することなく、その死に向かつて邁進していった。

その意味において、彼の死は必然であり、それはまさに歴史の皮肉である。

2. 加害者山上容疑者の被害者としての側面

山上容疑者が統一教会に家族を崩壊させられ、そのことでどれほど苦しみ、悲しみ、怒り、絶望を覚えたとしても、その復讐のために安倍氏を殺害することは、許されることではない。

しかし山上容疑者のような信者の子供たちは異口同音に山上容疑者と同じ苦しみ、怒り、悲しみ、絶望をいま訴えている。

統一教会の霊感商法が大

3. 安倍氏の死がもたらすその後の政局

安倍政権による8年8ヶ月にわたる長期政権の下、安倍強権政治推進のための旗頭(はたがしら)・村度システムが構築された。警察、内調、公安調査庁などがそのために利用され、安倍政治への批判的な人々が次々と排除され、マスメディアも右傾化した。

しかしこのシステムは、旗頭の下に力を結集するという大衆的動員方式をとるために、何かの偶然でその旗頭が突然無くなると、それを支えてきた組織が内部分裂と空中分解に向かう脆さや危うさを持つ。

安倍氏のコロナ失政による政権投げだしのあと、安倍氏とその取り巻き連中が構築したシステムは、菅・岸田政権には受け継がれず、安倍氏はそのシステムの上に座り続けた。なぜならこのシステムは安倍氏のために作り出されたシステムであり、他の誰でもよいというものではなかったからで



ある。そのため、首相でなくなつた後でも、彼は自民党や補完勢力に対して絶大な力を持ち続け、三度目の政権を狙っていたと言われている。そして突然、そのシステムの頭が無くなってしまった。

安倍氏の突然の死により、近々清和会の内部分裂と空中分解が起こり、自民党政治は流動化していくだろう。

4. 自民党政治の流動化

いま、日本会議、清和会および神道政治連盟など右派の悩みは深い。安倍氏を失った喪失感と悲しみは、神輿がない担ぎ手の気持ちと相通ずる。担ぎたくても担ぐ神輿がない。

安倍晋三という抜群の神輿を失った彼らは、先の見えぬ絶望感と喪失感の感情をどこに持って行けばよいのか困惑している。なぜなら安倍氏の喪失は、安倍氏が闘っていた「こんな人たち」によつてもたらされたのではなく、安倍氏など価値観を同じくする統一教会の犠牲者によるものであるために、その怒りの持つて行き場がないからである。

外国発の宗教団体が、その宗教を他国に布教するのは宗教の自由である。しかしその宗教団体が、日本国憲法改正や非核三原則反対、原発推進などの社会運動を信者を使って行うことは、その国の国家主権を犯す国際法で禁じられている内政干渉である。

この問題は、明らかに日本の内政問題であり、信仰の問題ではない。他国の憲

法を変えたり、原発を推進するような宗教団体は、果たして宗教団体と言えるであらうか。

日頃から「日本を守る」「わが国の名誉と国益を守る」と声高に主張している自民党議員が、統一教会と協力関係を持つことは、売国行為そのものと言つてもよいだろう。

5. 岸田政権の取るべき姿

岸田政権は世論の手前、統一教会に対してそれなりの対応をとらざるを得ない。それに対して統一教会もやむを得ず反撃に出て、自民党議員との過去の関係を暴露するかも知れない。今後、統一教会と個々の自民党議員の関わりは、必ず表に出てくる。これほど情報が発達して現代では、隠し通すことは不可能である。

それ故、統一教会と過去の関係を隠せば隠すほど、関係した議員の傷口は深くなり、どうしようもないところまで追い込まれる。

選挙に外国発の宗教団体が関係していれば、これは国政を著しく歪める行為であり、そのことにより自民党は大混乱に陥いるだろう。今後、自民党が政党として政治に責任を持ちたいと真剣に思うなら、統一教会との今までの関係を一つ残らず徹底的に洗い出し、そのことを心の底から国民に謝罪し、今後は彼らとの関係を一切絶つこと以外、自民党は政党として存立していくことは不可能である。

6. 私たちが「私」の問題にどう取り組めばいいか

私たちに最も求められているのは、いま統一教会の被害にあつて苦しんでいる二世の若者、脱会しようとして

している人たち、事件を受けて統一教会への疑いを持ち始めている会員たちへの社会的支援である。

私たちが統一教会への関心を持ち、いま孤立化しつつある統一教会員を社会から排除するのではなく、暖かい連帯の手を差し伸べることである。

多くの自民党議員が統一教会の活動に協力し、彼らの活動にお墨付きを与え、被害者を拡大してきた。まづ政府はこのことを深く反省・謝罪し、統一教会の被害態を徹底的に調査、実態解明を行い、統一教会への解散命令の請求を直ちに裁判所に提出しなければならぬ。

そして今までの政権がなすべきことをなさなかったことよつて起こつた被害に対して、その被害の実態に応じた国家賠償を行い、依然としてマインドコントロールされている教会員には、精神的な治療も含め丁寧なケアが国の責任となされなければならない。

私たちは、こういった措置を行うよう政府に強く迫っていかなければならない。

当面の日程

- 【9月】
- 9月22日(木) 13:30 単位退教代表者会議 教育会館2F「コスモス」
- 9月26日(月) 国葬反対集会 18:30 中之島公園女神像前
- 内容:大規模な集会・市民パレード 主催:おおさか総がかり行動実行委員会
- 【10月】
- 10月3日(月) 13:30 謡を楽しむ会 茶臼山画廊
- 10月4日(火) 5日(水) 13:15 全退教近畿ブロック学習交流会白浜・むろべ
- 10月10日(月・祝) 14:00 短歌を楽しむ会 ガットネロ
- 10月21日(金) 12:00 憲法宣伝 上六交差点
- 10月21日(金) 14:00 府高退教第328回幹事会 教育会館3F「ローズ」

★11月11日(金)秋の散策京都方面を予定

府高退教通信

NO.255

発行 543-0021

大阪府天王寺区東高津町七一十一
府教育会館7F 大阪府高教内
大阪府立高等学校
退職教職員会

TEL 090-1227-5142 (末光)
FAX 06-6768-1675

沖繩知事選で玉城デニー氏 再選果たす！

辺野古新基地NOが県民の声！

幹事長・末光章浩

勝ちました！ 33万 9767票で自民候補に大差をつけての玉城デニー氏の勝利、そして玉城県政をささえる県議補選での上原カイザ勝利は誠に嬉しい限りです。

今回の勝利は中国の台湾進攻をめぐり、アメリカが描く新戦略の下、東シナ海において、先島諸島・南西諸島のミサイル配備や辺野古新米軍基地建設などの軍事対軍事の対決が現実には強まり、戦争が起きれば77年前の悲惨な状況以上に沖縄が破壊される危険が増大する緊迫した中での勝利、



次の日から連日、朝8時から18時までの間、グ、意思統一の後、タクシーで移動しながら午前中ピラ配布orハンドマイク作戦、午後もハンドマイク作戦、18時からスタインディング。体力には自信があつた私も時間経過とともに足腰がパンパン。しかし、ドライバーが手を振って激励、学校帰りの小学生・中学生に

第225回府高退教「短歌を楽しむ会」(22・7・11投稿順)

池永さんが選挙管理委員としての仕事が朝方までかかったのに駆けつけてくれ、川崎さんが久しぶりに投稿してくれましたので皆で喜びました。川崎さんの歌の「それなら東下り」とは伊勢物語の業平さんのお気持ちなのだとか、堺の空襲のこと、参議院議員選挙のこと、月岡さんの巡礼の旅の話、アンデスレッド、シャドークイーンというピンクと紫のジャガイモの話、歌を鑑賞しながら、いろんな話が出ます。

「年寄り」で俺を括るな曾孫はいるが血をたぎらせるときもあるのだ 高橋貞雄
街づくり持論を訴え若者は我が意を得たりと席に着きたり 川上憲一
棲み分けて行きませんかと呼びかける他生物では既に実現 池永 孝
探しあぐね問ひ問ひ薄暮の山を歩き最後のポスター拝みつつ貼る 正重哲美
舗装道ミミズたおれてあちこちに棲みか辿れず命果ており 佐々木有馬
ホーホケキョあちらの梢で一鳴きがそのあと私がホーホケキョ 月岡秀夫
生き延びる暑さに負けず雑草は一つひとつに名前持つなり 田中康之
薄桃の立葵雨に濡れ凜と咲く雷鳴迫る中 鈴木晋司
ゴミの日は鳥の番するおのこ三人行つてらっしゃいと子らをも励まし 山尾邦子
税金を納めておいてよかったと思える国に早くなれかし 福谷美智子
このごろは朝寝昼寝のやうなきみさらばあづまへたつことありや 川崎康樹
川べりにテント設へ空襲忌夕風初むる七月十日 瓜生野
足弱の外出の往還だんどりを友存すがり 大屋弘子
棄権はしない

次回第227回は2022年10月10日(月)です。歌稿は、10月3日(月)までに、下記宛ハガキ・FAX・メールなどでお送り下さい。8月の会はお休みでした。
〒583-0024 藤井寺市藤井寺2丁目6-17 山尾邦子
tel・fax 072-954-8524 携帯 090-9167-3031 mail kunchan925@outlook.jp

新語の創出 国葬儀

浅海文雄(教育センター附属)

「国葬」でなく「国葬儀」だそうだ。内閣府設置法第4条で、内閣府は「国の儀式」に関する事務を行うとあり、国による葬送の儀式というわけだ。なんとエリザベス女王の死去にさいしても、官房長官はこの語を使つた。

国あるいは国家の構成要素に国民が入るのは常識だ。まして国民主権のこの国で、法律にない国の儀式を、国民を無視し、閣議決定だけで行えるはずがない。「国権の最高機関」の国会にはかかる。とすら、しなかつた。

明確に憲法に反する。特定の個人の葬儀を、法的根拠なしに内閣が恣意的に決める、憲法14条「法

が、手を緩めた方が負けだと最後まで緊張感にみちた選挙戦でした。「あきらまない、誰一人取り残さない」とデニー氏の決意は、今後の沖縄の未来を切り開く指針です。基地のない沖縄をめざし、辺野古新基地建設中止、危険な普天間米軍基地の即刻閉鎖、県民所得を大きく増やすための更なる観光事業の振興、中3までの医療費無料や中3までの少人数制実施、中3までの少人数制無料の賛同者。国葬や旧統一教会問題で沖縄でも自民支持率が下がり、幹部級も台風の影響もあり、沖縄入りできない状況でした。